

# 小冊子「スマホと情報モラル」の作成および

## 情報モラル指導について

村田 紗基

帝塚山学院大学大学院研究生

gbscgg@yahoo.co.jp

高橋 参吉

帝塚山学院大学人間科学部

takahasi@hs.tezuka-gu.ac.jp

近年、急激に利用率を増やし続けている「LINE」を主とする内容の情報モラル教材の小冊子を作成した。この発表では、作成した小冊子「スマホと情報モラル」の内容について述べ、大学1回生の情報倫理の授業で使用した試みを踏まえ、高校の情報モラルの学習での利用について検討する。

### 1. はじめに

近年、スマートフォンの普及率は大幅に伸び、利便性も格段に上がってきている。また、携帯電話やスマートフォンを所持する年齢層は低年齢化してきており、利便性に潜む危険性についての認識がおろそかになってきている。

インターネットやソーシャルメディアの普及とともに、知っておくべき注意点や利用方法なども増え、また複雑化してきている。使用上のルールやマナー、モラルについては個人によって受け取り方や考え方がさまざまであるが、最低限注意しておくべきことなどを明確化し、できるだけ早い段階から学んでおくべきことが必要である。

そのために、小冊子「スマホと情報モラル」(A5判, 22頁)を作成した<sup>(1), (2)</sup>。本稿では、作成した小冊子「スマホと情報モラル」の概要について述べ、実際に大学1回生の情報倫理で使用した授業での試みを踏まえ、情報モラルの学習指導での縮刷版である小冊子(高校版)(A5判, 11頁)の利用について検討する。

### 2. 小冊子「スマホと情報モラル」の概要

ソーシャルメディアの中で最も利用率の高いLINEに焦点を当てた小冊子「スマホと情報モラル」を作成した。生徒に、LINEは馴染み深く、身近な存在であるため、教材としてとりあげることにより、情報モラルに興味と感心を持ってもらえると考えた。

作成した教材の内容は、「歩きスマホとマナー」「LINEとメール」「ネットいじめ」「ネット依存症」等である。また、生徒が自ら考える課題も記載した。表1に、小冊子「スマホと情報モラル」の概要を示す。

また、表1の1~4のテーマについてのみ示した縮刷版である小冊子「スマホと情報モラル」(高校版)も作成した。

高校版では、取り扱うテーマと課題の内容が高校生にとって身近で、より理解しやすく、考えてほしい内容をまとめたものである。

表1 「スマホと情報モラル」の概要

テーマ	内容
1. 歩きスマホとマナー	・歩きスマホとは ・事故を防ぐために ・スマホに関する法令
2. LINEとメール	・LINEとメールの特徴 ・コミュニケーションの違い
3. ネットいじめ	・LINEとネットいじめ ・ネットいじめの実態
4. ネット依存症	・ネット依存症とは ・依存度チェックリスト
5. 個人情報漏洩と詐欺	・情報はどのようにして漏れているのか ・無料アプリに要注意 ・不正な個人情報の入力画面
6. 「まんだらけ事件」	
7. コラム(不正アプリの実態)	コラム(スマートフォンのOS)
8. 付録 依存度チェックリスト	
参考資料	

つぎに、「スマホと情報モラル」では、テーマごとに注目されている事例が記載されており、それらを読んだうえで、生徒が考え、取り組む課題が設定されている。

個人で考える課題や、意見交換をする課題などがあり、生徒どうしでの話し合いや、発表を行うなどの学習活動を設定している。課題に対する決まった解答は用意されていない。

### 3. 「スマホと情報モラル」の課題

「スマホと情報モラル」の課題を表2に示す。

表2 「スマホと情報モラル」の課題

テーマ	課題内容
1. 歩きスマホとマナー	① 歩きスマホはどうすれば安全になるでしょうか？ ② 歩きスマホの被害者と加害者について考えてみよう。
2. LINEとメール	LINEは、スタンプ機能がついていて、感情にあったスタンプを貼れるのが特徴です。メールは、LINEより歴史が長く、用意された多彩なテンプレートで作成できるのが特徴です。ある特定の場面を想像してみんなで意見交換をしてみよう。 ① この2つのツールで、よりの確な内容を伝えられるのはどちらでしょうか？ ② LINEやメールでやり取りをするとき、どちらがより伝わりやすいかを考えてみよう。
3. ネットいじめ	みんなで意見交換をして考えてみよう。 ① LINEの長所と注意点を整理してみよう。 ② LINEいじめはどうすれば防ぐことが出来るでしょうか？
4. ネット依存症	① スマホ依存かどうか調べてみよう。 ② 付録の韓国のS-スケールでスマホの依存度をチェックしてみよう。

### 4. 課題に対する学生の意見

帝塚山学院大学の情報倫理の受講者（情報メディア学科44名、(1回生35名)）に、「スマホと情報モラル」の課題について、考えたことを記述してもらった。利用した課題は、「2. LINEとメール」と「3. ネットいじめ」である。

課題に対する回答は記述式であるので、多くの意見が記載されている。ここでは、回答内容をまとめた結果数および最も多かった意見のみを記載する。また、ネットいじめの②の課題に関しては、かなりの意見があったため、3つのみ記載する。また、学生の意見の詳細は、発表時に紹介する。

以下に、課題に対する学生の意見を示す。( )内は回答人数である。

#### 1) LINEとメール

##### ①の課題について

・的確な内容を伝えられる		
LINE(5)	メール(13)	使い分ける(5)

理由

(LINE)

・スタンプ機能で感情を表現できる(4)

(メール)

・件名、本文の順序があるのでわかりやすい(5)

##### ②の課題について

・より伝わりやすいメディアである	
LINE(13)	メール(6)

理由

(LINE)

・感情にあったスタンプが使える(10)

(メール)

・相手に伝える文書を考えられる(3)

#### 2) ネットいじめ

##### ①の課題について

長所	既読がある(10)
注意点	既読に関するトラブル(8)

##### ②の課題について

- ・それぞれの生活を重視する
- ・既読無視に過剰に反応しない
- ・きちんと会って話す

### 5. おわりに

本稿では、作成した小冊子「スマホと情報モラル」（高校版）および課題に対する学生の意見を中心に述べた。

「スマホと情報モラル」（高校版）は、生徒にLINEと中心としたコミュニケーションツールに再注目してもらい、考える機会を作ることが役割だと考えている。そのために、本稿では、課題に対する学生（主に大学1回生）の反応を記載した。

今後、高校で教育実習を行う機会があり、小冊子「スマホと情報モラル」を使った研究授業も行う予定である。発表時には、できれば、「スマホと情報モラル」を利用した学習指導や生徒の反応などを紹介したいと考えている。

### 参考文献

- (1) 村田紗基：ソーシャルメディアの特徴を考慮した情報モラル教材の作成，帝塚山学院大学大学院人間科学研究科修士論文(2015)。
- (2) 村田紗基：ソーシャルメディアを考慮した小冊子「スマホと情報モラル」の作成，日本情報科教育学会近畿北陸支部研究会(2015.3)。